

正範語録

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
会長 田中 宏



実力の差は努力の差
実績の差は責任感の差
人格の差は苦勞の差
判断力の差は情報の差
真剣だと知恵が出る
中途半端だと愚痴がでる

いい加減だと言いつけばかり

本気であるから大抵のことはできる

本気であるから何でも面白い

本気でしているから誰かが助けてくれる

作者不詳の名言という説があるが、甲斐の戦国武将、武田信玄公の名言をアレンジしたという説もある。

私たち社会人が社会生活を営む上で、この言葉が事の多くを説いているのではないか。

例えば、診療科から出されるオーダーが放射線科の現場で理解不能である場合がときどき見受けられる。理解できない現場の技師からすると、オーダーに疑義が生じていると考えるが、患者を納得させる目的や、訴訟などを考慮したオーダーというケースがある。それらケース・バイ・ケースの情報を持ち合わせていない現場技師では、情報が足りないということもある。カンファレンスに出席して情報収集することが最も効果的である。また装置選定などでは、新機種の内容や発

表タイミングなどの情報も判断力の差となる。

「苦勞」は自分がした苦勞以上のことは実感できないし、たとえ苦勞話を聞いても他人事なので参考程度にしかならない。努力をすれば必然と苦勞をすることにはなるのであるが、若い時に自らそのような環境に身を置くということはそれなりに意味がある。

自分が「真剣」なのか「中途半端」なのかを判断するのは難しい。自分が愚痴っぽいかな否かで判断するのは一つの指標となりやすい。もし、自分が愚痴っぽいことに気づいたらあえて愚痴を言わないようにするとよい。

私たちコメディカルの業種や業務範囲は置かれている環境によって大きく影響を受ける。病院組織の方針や、同僚技師によっても影響されることがあり、必ずしも希望する仕事を自分自身では決められないことが少なくない。自分が希望する仕事でなくても、「本気」で行えば、それなりに面白くなる。「本気でしているから誰かが助けてくれる」と「他人を当てにする」は雲泥の差があり、後者はそもそも本気ではなく、自分が本気でなければ他人が本気にはなることはあり得ない。

私自身もこの正範語録に励まされている一人であるが、数多くのチャンネルを持ち、他人のチャンネルと比較をする謙虚さを常に持つように心掛けたいと日々努力している。